

現状の課題

英語の授業において「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動が不十分なため、即興での表現を苦手とする生徒が多い。

具体の取組の内容

- (1) 授業におけるチャット活動の実践・・・全学年の授業に帯でチャット活動を位置付け、それぞれの段階に応じて取り組む。
 - 【段階1】コミュニケーションの基本である相手を意識することを徹底する。
 - 【段階2】つなぎの技を使って、会話を続ける。
 - 【段階3】学年に応じてトピックの内容や会話時間を設定する。
- (2) 国際理解ルールの整備とICTを活用した授業の展開
 - ・場面絵を提示し、会話を体験的に感じられるようにする。
- (3) チャットのスキルを活用した音読活動の取組
- (4) 小中高で連携した教員の指導力向上の取組



成果①

- スピーキングテストから
 - 9月の目標 30秒の会話(定型文)
 - 12月の目標 1分の会話(テーマ)
 - ・難易度を変えたテストであるが、
 - どちらも95%以上の達成状況であった。スキルが身に付いてきている。
 - 非言語のコミュニケーションを自然と用いる姿が見られるようになった。

成果②

- 生徒が、本文を棒読みで読み合うだけのロールプレイではなく、相手の言葉に対して、よく聞き取れない時は聞き返したり、リアクションをしたりするなど、チャットで身に付けたスキルを活かして表現できるようになってきた。
- 小中高の系統性を意識した指導計画や指導方法の見直しを行ったことで、生徒にとって、「使える英語」が身に付く授業展開を行うことができるようになってきた。

今後の課題・方向性

- 1年生では会話の土台づくりに努め、話すことへの自信をもたせる。アウトプット量を増やし、学習内容の定着を図る。2, 3年生では、場面設定を日常に近づけていく。各段階で工夫を重ね、言語活動のさらなる充実を図る。
- 一人一人の「話すこと[やり取り]」の力を評価するための具体的な方法を確立する。
- 新学習指導要領の趣旨に示されたカリキュラムマネジメントに基づき、他教科・領域の学習や学校行事と関連づけた指導を工夫すると共に、英語が堪能な地域人材の活用等、指導体制の充実を図る。